

## 子どもの貧困・機会格差問題部会で考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。  
皆様は、クリスマス・年末をどのようにお過ごしでしょうか。今年1年「開倫塾の時間」をお聴きいただき本当にありがとうございました。
2. 12月21日から東京の経済同友会で、子どもの貧困・機会格差問題について考える部会が始まりました。私もその部会の委員に選任されています。今日の「開倫塾の時間」では、そこで議論されたことを中心に、私が考えたこととお話させていただきたいと思います。
3. 東京の経済同友会の代表幹事である小林さんという方は、政府の多くの役職を担当なさっています。そこで、代表幹事に対して、このようなことを政府に提言したらどうかということや、政府のいろいろな方、政策当局の方々をお呼びして実際に議論し、国の政策に反映させていただきたいということで始まった委員会です。私が所属している委員会は、子どもの貧困・機会格差問題部会というもので、第1回の会合が開かれました。内閣府に子どもや子育てに関する本部があり、首相官邸の審議官や文部科学省・厚生労働省から子どもの貧困と機会格差についての担当の方々がおいでになりました。そこで話をお伺いしたあとに、ディスカッションをしました。
4. 私が非常に関心を持ち、有難いなと思ったことは、これから先、学校をプラットフォームにした総合的な子どもの貧困対策を推進するという案が文部科学省から示されたことです。これは素晴らしいことだと思います。安倍首相は、今年の9月24日にアベノミクスは第2ステージに入り、政府は子どもの貧困対策として夢を紡ぐ子育て支援をするということです。子どもたちの未来が家庭の経済事情で左右されることがあってはならない・奨学金を拡充し、希望すれば誰でも高校や専修学校、大学に進学できる環境を整える・一人ひとりの家庭の支援を充実して子どもの貧困問題に取り組む、ということをおっしゃいました。子どもたちには無限の可能性が眠っていて、本人の努力次第で誰でも大きな夢を紡いでいくことができる、そうした社会を作り上げていきたいと思っています。このように、政府における子どもの貧困対策についての方針を示されました。
5. これを受けて、首相官邸や文部科学省、厚生労働省がいろいろな施策を作っているわけです。文部科学省は、学校をプラットフォームにした総合的な子どもの貧困対策の推進を掲げています。学校はいろいろな方が集まる場所ですので、学校を中心に様々なことをしたいとしています。例え

ば、学校教育における学力保証をしたいということです。家庭環境などによって教育格差が生じることを防ぐため、また、それを解消するために、学校の先生を増やしましょう。また、定時制や通信制課程、総合学科などの高等学校における様々な学習を支援しましょう。定時制を充実させたり、通信制や総合学科を活用したりなど、今あるところをもっともっと強くしようということです。

それから、学力向上を目的として補習や補充学習などを行うサポートスタッフを派遣しようという考えもあります。これも素晴らしいことですね。また、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーをもっともっと配置し、一人ひとりきめ細かく行うということもありがたいお話だと思います。さらに、学校支援の充実のために、地域未来塾といいますか、ボランティアの方々をお願いしたり、自分たちで企画を立てたりして学習支援をしようということもあります。以上のように、いろいろな施策があります。

6. そこで私が考えるのは、学校には素晴らしい施設がたくさんあるということです。例えば、学校の図書室です。図書室をもっともっと充実させて、子どもたちに学習する機会を与える。これは私の個人的な意見ですが、図書室を充実させるために司書の先生が毎日通えるようにしていただきたいということです。多くの学校では、国語を担当している先生が図書館の司書の先生を兼ねています。そのような場合は、国語の授業をしているときは図書室が閉まっていることがなきにしもあらずです。ですから、専用の司書の先生を雇って、学校の図書室で頑張っていたいただきたいと思います。

また、これもなかなか難しいことかもしれませんが、学校の図書室を4時や5時に閉めるのではなく、夜7時、8時まで開けていただきたいということです。そして、家で勉強するのが困難な子どもたちには、学校で勉強できるようにしていただきたいなと思います。

7. 次に給食の話です。昼間は学校の給食が出ますので、お昼ご飯が食べられます。しかし、朝や夜は十分にご飯が食べられない子どもがいると大変です。そこで、できれば朝の給食や夜の給食、日曜の給食などについても少しずつ考え、おなかをすかせた子どもがいないようにしていただきたいなと思います。

8. さらにいいますと、学習塾や予備校などの民間の教育機関などは、お金が大変な方には、例えば1%、2%などの割合を決めて、無料、または低額な料金で勉強する機会を与えていただきたいと思います。勉強や習い事などの民間の教育機関の方々が皆で力を合わせると、貧困の撲滅とまではいかないかもしれませんが、貧困対策や学習する機会を増やすことにつながると思います。政府や学校で行い、民間もできることを行うというように、皆で手を携えて子どもの貧困対策・機会格差の是正をすることも大事だと思います。

今年1年「開倫塾の時間」をお聴きいただきましてありがとうございました。来年もよいお年をお迎えください。